

運用指針

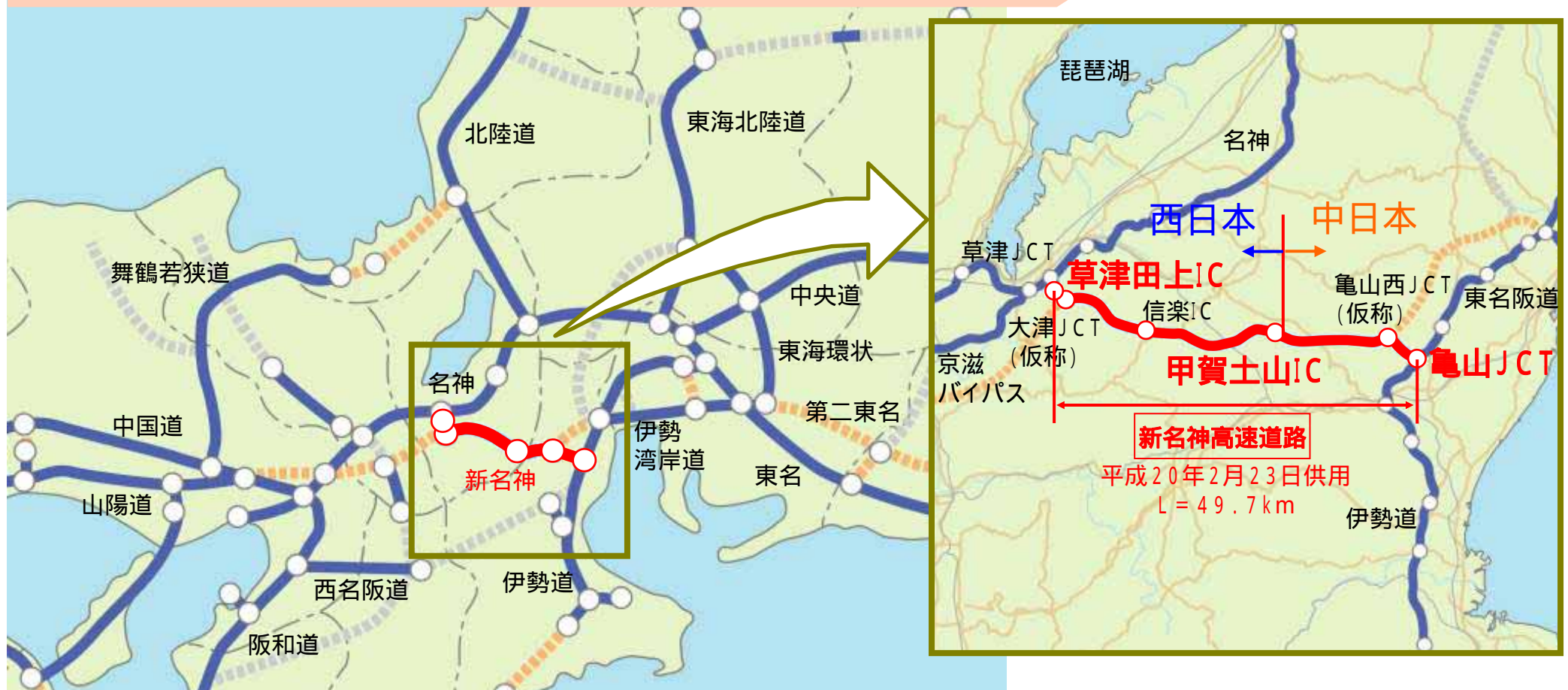
第2条

供用までの期間を短縮したことによる費用の縮減

こう かつちやま

新名神高速道路(亀山JCT～甲賀土山IC)の早期供用

新名神高速道路 亀山JCT～甲賀土山IC位置図



新名神高速道路 甲賀土山IC～亀山JCTの路線概要

- ・東西の基幹交通を担う大動脈である名神高速に替わる新たな路線である。
- ・開通後の交通量は、約3万台/日であり、並行する名神高速の渋滞緩和や沿線地域の活性化に寄与。

当初の工程計画

平成20年2月頃の用地取得を予定として供用時期を検討

土地収用法による用地取得での当初工事工程表

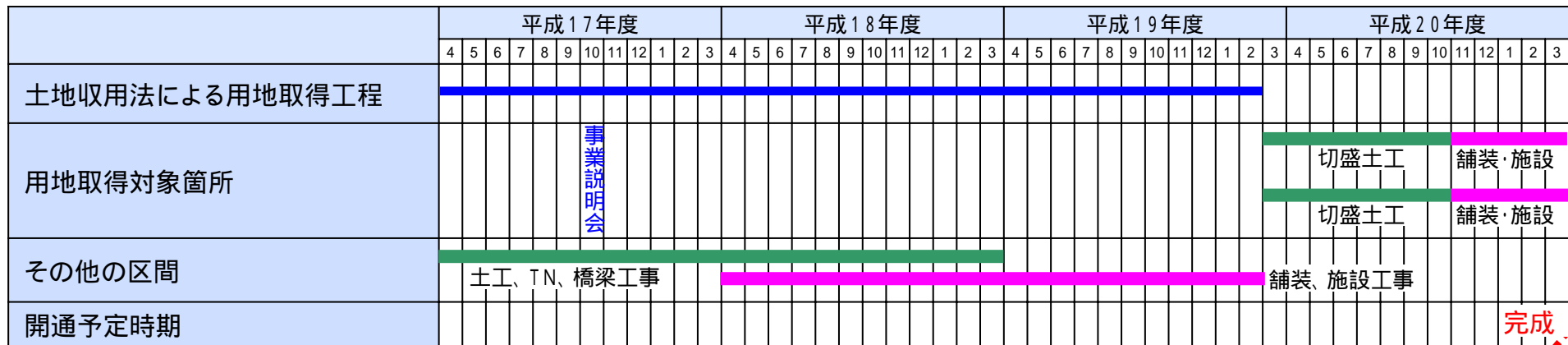
		平成17年度												平成18年度												平成19年度												平成20年度											
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
土地収用法による用地取得工程		[Blue bar spanning from 4/17 to 3/19]																																															
工事	切盛土工4.2万 ³	[Green bar from 4/19 to 3/20] [Pink bar from 4/20 to 3/21]																																															
	切盛土工4.8万 ³	[Green bar from 4/19 to 3/20] [Pink bar from 4/20 to 3/21]																																															
その他の区間		土工、TN、橋梁工事												[Pink bar from 4/18 to 3/19]												舗装、施設工事																							
開通予定時期		[Pink bar from 4/18 to 3/21]																																															



工事完成予定を平成21年3月末として協定を締結

工程短縮の取組み

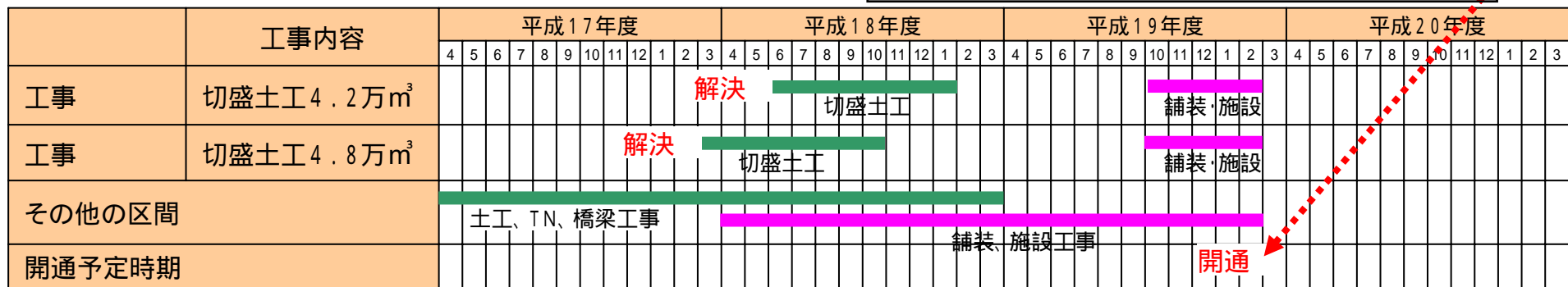
当初の工事工程表



事業説明会

会社は任意による用地取得を目指して、交渉を継続。
交渉の結果、任意により早期に用地を取得！

早期用地取得での工事工程表



工期短縮への取組みの結果、402日の早期供用(平成20年2月23日供用)
 (上記のコスト縮減以外のメリット)
 ・ 早期供用に伴う社会的便益の早期発現

経営努力要件適合性の認定について

早期の用地取得に向け粘り強く交渉した結果、任意で用地を取得したことにより、**供用までの期間を短縮したものである。**

運用指針第2条第1項第3号に該当

供用までの期間を402日間短縮したことによる
建設中一般管理費及び建設中金利の縮減 → 会社の経営努力による
ものであると認定

助成金交付における経営努力要件適合性の認定に関する運用指針（抜粋）

第二条 経営努力要件適合性の認定基準

機構は、助成金交付申請をした高速道路会社の主体的かつ積極的な努力による次の各号に掲げる費用の縮減（適正な品質や管理水準を確保したものに限る。）について、経営努力要件適合性の認定を行うものとする。

供用までの期間を短縮したことによる費用の縮減